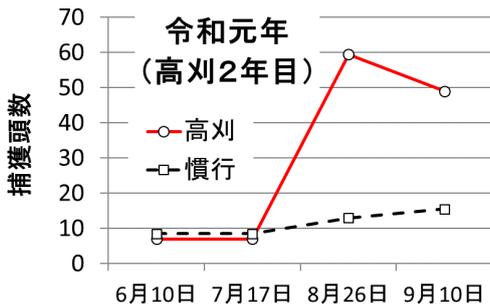


りんご園地における土着カブリダニ類保護のための下草管理

【1 成果の概要】

- (1) 下草を高刈管理（刈り高 8 cm）すると下草のカブリダニ類の生息数が増加しやすくなります（図 1）。
- (2) 高刈管理と選択性殺虫剤中心の防除をあわせて実施すると、ハダニ類の増加に伴ってカブリダニ類が増加し、ハダニ類の発生が抑制されます（図 2）。



下草で確認したカブリダニは、ナミハダニの捕食能力が高いマクワカブリダニと若干のミチノクカブリダニです。

図 1 試験概要（試験場所：農研センター内圃場）

- (1) 下草の高刈区は、通路を 8 cm、樹冠下を 5 cm に刈り取り、慣行区は 2 cm の高さで刈り取り、樹冠下には除草剤を使用した。
- (2) 草刈は、5～9月にかけて1ヶ月に1回程度実施した。

図 1 下草におけるカブリダニ類の発生状況

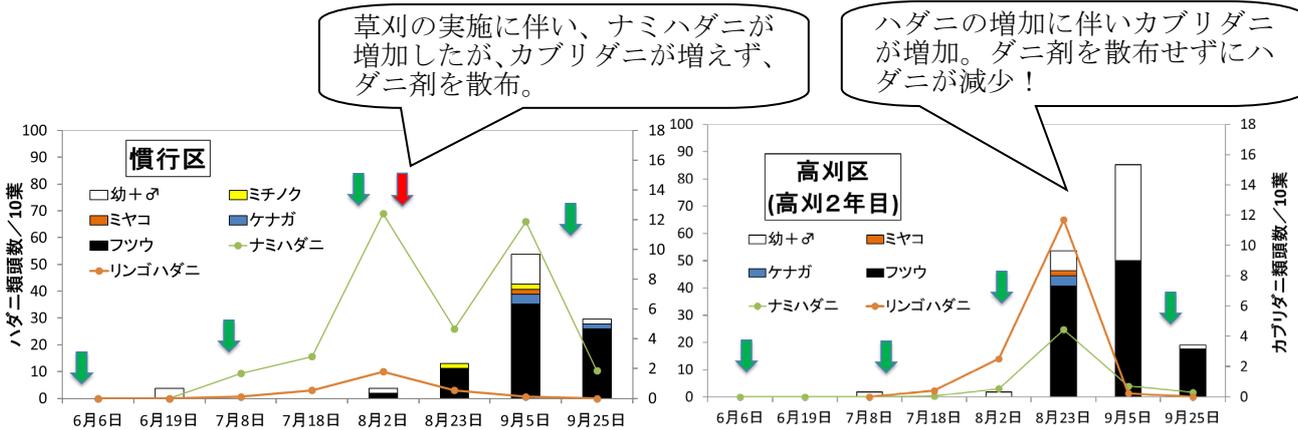


図 2 下草管理の相違による樹上のハダニ類、カブリダニ類の発生消長（令和元年）

（ ↓ は、殺ダニ剤の散布時期、 ↓ は草刈の実施時期を示す）

図 2 試験概要（試験場所：図 1 試験と同じ）

- (1) 使用した殺虫剤は両区とも同じ（展葉期、7月上旬に有機リン剤、その他は、ジアミド剤、ネオニコチノイド剤、IGR剤を使用。また、満開2週間後に摘果剤（カーバメート剤）を使用）。

【2 留意事項】

- (1) カブリダニ類を保護するために、影響の大きい合成ピレスロイド剤、有機リン剤、カーバメート剤は、極力使用しないでください。
- (2) カブリダニ類の定着には数年を要し、発生に年次変動があるため、樹上でカブリダニ類が確認できず、ハダニ類の増加がみられる場合には、殺ダニ剤を使用してください。
- (3) 下草を粗放管理すると褐斑病などの病害を助長することがあるため、定期的に高刈管理を実施してください。